

<はじめに>

成木小学校は今年度、創立30周年を迎えます。そして令和8年度には創立記念式典も開催されます。この節目にあたり、成木地区を改めて振り返り、先人や地域の想いを再確認することでより成木小を愛する心を育てていきたいと思っています。

全20回にわたり明治以前から現在に至る期間を振り返っていきます。私が生まれる前の話もありますので、各地区にお住まいの見識の高い方々にご協力と監修をお願いしています。保護者の方々をはじめ地域の皆様にもお伝えできたらと思っています。

<第1回 昔々の成木地区>

成木小学校前の交差点付近に「安楽寺通り」の表示があるのをご存じでしょうか。安楽寺がある場所を知っている方なら、『この道が安楽寺まで繋がってる?』と思うかも知れません。歩いてみると、途中に切通しもあって、なるほど昔の道なんだと感ずることが出来ます。

成木地区は西暦716年、高麗人が武蔵国に居を構え、その地を高麗郡とし、成木地区も含まれていたそうです。1698年まで続き、その後多摩郡になりました。

皆様のご存じのところとしては、学校前から始まる「安楽寺通り」の安楽寺は、1150年に創建され、軍荼利明王（くんだりみょうおう）門の仏像が制作されています。その後も今でも残る寺院が創建されます。（表1）

1590年に成木は徳川幕府の直領（天領）となります。そのころから石灰（いしばい）焼きが行われており、その石灰は八王子城などの城壁にも使用されていたと言われており、その後江戸城大改修の折には、「御用石灰」として江戸へも成木石灰が輸送されていきました。

その運搬のため青梅街道が整備されました。（青梅街道の前身は、石灰の産地である成木地区を抜ける峠道、成木街道と言われています）

1780年頃から成木石灰は衰退し始めるそうですが、多くの寺社が建立したことからも多くの人が住んでいたことが想像されます。

成木付近の石灰石は、1918年（大正7年）から4年間ほど東青梅駅付近から黒沢まで専用軌道（列車）を敷き、運搬していたそうですし、1924年ごろに二俣尾駅から引き込み線を作って運搬を始め、その後トロッコによって上成木の奥から石灰石を運ぶこともしていたようです。

成木地区の主な寺院の創建・移築（表1）

安楽寺	（下成木）	1150年
不動堂	（上成木）	1203年
延命寺	（上成木）	1312年（石塔婆?）
道明庵	（小中尾）	1480年（のち紫雲院）
草庵	（二本竹）	1534年（のち長蔵寺）
薬師堂	（小中尾）	1558年
熊野神社	（大蔵野）	1572年
虚空蔵堂	（久 道）	1580年（のち慈眼院）
蜷沢院	（蜷 沢）	1596～1622年頃
正沢寺	（正 沢）	1596～1614年頃
大泉院	（白 岩）	1617年
高岩寺	（八子谷）	1660年
長全寺	（大蔵野）	1660年

今の残る昔の人と同じ道を歩いていたんだと想像すると、ちょっと楽しくなりますね。

【参考】（書籍）第8小学校「成木学校百年のあゆみ」 青梅市立第十小学校「ありがとう十小」

（Web）武揚液化ガス（株） おめ通 青梅 Navi 青梅資料館 青梅市 HP

【監修】地域講師 若林 博司